

考古学から見た播磨町の遺跡や出土品など、文化財のよもやま話をお届けします。

播磨町 むかし昔

その四 「鴨波」から「住吉」へ②

前号に、住吉大社の名前を挙げた時点で、「住吉郷」はこの神社と関係するのではと気づかれた方も多いでしょう。現在の播磨町の近辺には、町内に5か所の住吉神社（大中・野添・二子・古宮・古田）、そして加古川地域の山之上・二俣・一色・別府にも1社ずつ確認できます。さらに、本荘の小字「阿閑ノ元」には住吉神の子神の名前がついた「阿閑神社」が鎮座しています。江戸時代には住吉大明神と称し、この付近の住吉神社の中核社でした。

吉田東伍の『大日本地名辞書』も住吉神社の所在から、二見村（明石市二見）・阿閑村を住吉郷に当てます。課題は、住吉大社が当地とどのような結びつきにあり、いつ頃から始まったのかということです。

また『住吉大社神代記』には、阿閑津浜を住吉大社の神領地として掲げて

います。これは阿閑津が、（ある時期から）住吉大社の支配下に入ったことを記した説話なのです。古代の住吉大社は、王権（天皇）直属の神社で、王権から期待された住吉神の神威（役割）は住吉（江）津に出入りの「官船を守護」することでした。では、海に面する阿閑津・阿閑神社も、官船の守護のため支配下に入れられたのでしょうか。坂江渉はこれを理解するために、播磨国内陸部に置かれた賀茂郡の住吉神社に着目しました。古代播磨国は、近江・丹波国などと共に大陸向けの船舶を造る土地（場所）だったのです。特に、賀茂郡には住吉大社の所領「椅鹿山」という山があり、住吉大社と津守氏はその用材（船木）調達と造船の事業にも関与していました。椅鹿山は加古川支流の東条川流域にあり、きり出された船木は加古川水系を通じて播

【問合せ】播磨町郷土資料館 学芸員 大平 茂
☎ 079 (435) 5000



「野添住吉神社」
鳥居に掲げられた神額



「阿閑神社」
鳥居に掲げられた神額

磨灘沿岸部に運ばれたのです。現在の小野市下東条には「船木町」という地名が残っています。
賀茂郡に、式内社の住吉神社が置かれたのは、この山の所領保護のために、その管理にあたったのが船木連氏というのです。
このように、「鴨波里」は住吉大社の神領地（材木の集積地）になった関係で、「住吉郷」に変化したのです。

町の人口 6月1日現在

住民基本台帳人口（ ）は前月比
34,736人(+19人) 男…17,017人(+10人) 世帯数…14,340世帯(+21世帯)
女…17,719人(+9人)